

- 問1 平安時代、藤原氏が天皇の外戚（母方の親戚）として権力を握った政治体制において、天皇が幼少のときにその代わりを務めた役職と、天皇が成人した後にその補佐を執り行った役職の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2020年 徳島公立入試 類似）
- 摂政と関白
 - 将軍と執権
 - 太政大臣と右大臣
 - 上皇と法皇
- 問2 平安時代中期、遣唐使の廃止などを背景に日本の風土に合った国風文化が栄えました。この時期にかな文字を用いて執筆され、主人公である光源氏の生涯を描いた、世界最古の長編小説とも評される文学作品を選びなさい。（2024年 島根公立入試 類似）
- 源氏物語
 - 枕草子
 - 更級日記
 - 竹取物語
- 問3 11世紀後半、白河天皇が位を譲って上皇（太上天皇）となった後も、宮中（院）において政治の実権を握った政治形態を何と呼びますか。最も適切な語句を選びなさい。（2025年 埼玉県公立入試 類似）
- 院政
 - 摂関政治
 - 執権政治
 - 建武の新政
- 問4 11世紀後半、東北地方で起きた前九年合戦や後三年合戦などの戦乱を鎮圧した源義家が、東日本における武士の棟梁（指導者）としての地位を固めることができた歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 徳島公立入試 類似）
- 朝廷から戦功に対する恩賞が出ない中、義家が私財を投じて部下に報いたことで、武士たちとの間に強い主従関係が築かれたため。
 - 平氏一門を西日本へ追い払い、京都の朝廷から東日本全域の支配権を正式に認められたため。
 - 鎌倉に幕府を開き、御家人に対して領地の保証を行う「御恩と奉公」の仕組みを確立したため。
 - 承久の乱において上皇方の軍勢を破り、朝廷に対する武士の優位性を決定づけたため。
- 問5 平安時代初期、最澄が唐から伝えた仏教の宗派と、その修行の拠点となった場所の組み合わせとして正しいものを次の中から選びなさい。（2024年 愛媛公立入試 類似）
- 天台宗 — 比叡山延暦寺
 - 真言宗 — 高野山金剛峯寺
 - 天台宗 — 高野山金剛峯寺
 - 真言宗 — 比叡山延暦寺
- 問6 11世紀後半に白河天皇が始めた、天皇が位を譲って上皇となった後も引き続き政治の実権を握る政治形態を何といいますか。藤原氏が摂政や関白として権力を振るった「摂関政治」を抑える意図で行われたものを選択してください。（2024年 岐阜公立入試 類似）
- 院政
 - 執権政治
 - 親政
 - 幕政
- 問7 平安時代の遺跡から出土する青磁（陶磁器）は、当時の文学作品の中にも、貴族の生活を彩る貴重な品物として描写されることがあります。このように、中国の大陸から輸入された品物を取り入れつつも、日本の風土や好みに合わせた独自文化が発達した時代の文化を何と呼びますか。（2024年 栃木公立入試 類似）
- 飛鳥文化
 - 天平文化
 - 弘仁・伴野文化
 - 国風文化
- 問8 奈良時代には『万葉集』に見られるように、漢字の音や訓を日本語の表記にあてはめた「万葉仮名」が使われていましたが、平安時代になると、漢字を簡略化するなどして日本独自の文字が作られました。この文字が普及したことで、人々の感情や生活を細やかに表現できるようになった日本独自の文化を何と呼びますか。（2019年 長野県公立入試 類似）
- 国風文化
 - 飛鳥文化
 - 天平文化
 - 弘仁・貞観文化
- 問9 菅原道真が遣唐使の停止を建議したことによって、その後の平安貴族の生活や文化にどのような影響を与えましたか。最も適切な説明を選びなさい。（2023年 北海道公立入試 類似）
- 大陸の文化を日本の風土や好みに合わせて消化・吸収した、日本独自の国風文化が発達した。
 - 中国の律令制度をそのまま導入することで、天皇を中心とする中央集権的な政治体制が完成した。
 - 唐の先進的な土木技術を導入したことにより、全国で大規模な開墾が進み、班田収授の法が厳格に運用された。
 - 日本独自の文字である「かな文字」の使用が禁止され、すべての公文書を漢文で記す習慣が定着した。
- 問10 平安時代末期に成立した平氏政権の特色について、その背景や仕組みを説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）
- 後白河上皇に仕える武士勢力の中で台頭し、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、一門で官職を独占して政治の実権を握った。
 - 朝廷から征夷大將軍に任命された源頼朝が、鎌倉に幕府を開いて全国の武士を御家人として統制する仕組みを整えた。
 - 後醍醐天皇による建武の新政に反旗を翻した足利尊氏が、京都に幕府を開き、守護の権限を強めることで全国を支配した。
 - 有力な戦国大名であった織田信長が、足利義昭を追放して室町幕府を滅ぼし、実力によって天下統一を進める新たな支配体制を築いた。
- 問11 1156年に発生した保元の乱は、平安時代末期の政治状況を大きく変えるきっかけとなりました。この政変の直接的な原因となった、当時の朝廷内における対立関係を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2022年 島根公立入試 類似）
- 院政の実権をめぐる、上皇と天皇による主導権争い
 - 將軍の跡継ぎ問題をきっかけとした、守護大名同士の勢力争い
 - 武家政権の樹立を目指す武士団による、朝廷への反乱
 - 摂関政治を維持しようとする藤原氏と、新興武士層との対立
- 問12 藤原道長が「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることもなしと思えば」という歌を詠んだ時期の、藤原氏の権力の背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2026年 愛媛公立入試 類似）
- 自らの娘を次々と天皇の后に入れ、その子を天皇に即位させることで、天皇の母方の祖父（外祖父）として強い影響力を持った。
 - 地方の有力な武士団を武力で制圧し、全国の公領や荘園から徴収する年貢を独占することで、経済的な基盤を確立した。
 - 遣唐使や遣唐使を積極的に派遣して大陸の最新の政治制度を取り入れ、天皇を中心とする律令国家体制を再構築した。
 - 天皇の位を退いて上皇となり、天皇に代わって院の庁で政治を行う「院政」の仕組みを確立することで実権を維持した。
- 問13 平安時代末期、平氏の領袖である平清盛が、現在の神戸港にあたる大輪田泊を大規模に修築した主な目的として最も適切なものはどれですか。（2017年 大阪公立入試 類似）
- 中国の宋との貿易を拡大させ、経済的な基盤を強化するため
 - 東国から送られてくる年貢米を効率よく保管し、朝廷に献上するため
 - 元寇によるモンゴル軍の襲来に備え、瀬戸内海の防衛を固めるため
 - キリスト教の布教を許可し、南蛮貿易を促進するための拠点とするため